

## SCRP 報告

歯学科4年 井上拓哉

2011年度 SCRP に参加させていただきました歯学科4年、井上拓哉と申します。

すでにご存知の方が多くかと存じますが、SCRP について簡単にご説明させていただきますと、SCRP とは Student Clinician Research Program のことであり、学生による研究発表を行う大会になります。1959年に米国歯科医師会 (ADA) が、創立100周年を迎えるにあたって、当時の理事 Dr. ハロルド・ヒレンブランドがデンツプライ・インターナショナル社の社長ヘンリー・ソートンに対し、歯科学生による研究の実践発表という斬新で意義ある記念企画の後援を依頼したのがこのプログラムの始まりです。以来、一度の中断もなく ADA の事業として継続されております。この間、カナダ・イギリス・アイルランド・オーストラリア・ニュージーランド・香港・台湾・シンガポール・ドイツ・オーストリア・スイス・ノルウェー・スウェーデン・デンマーク・フィンランド・アイスランド・オランダ・インド・日本・フランス・タイ・韓国・南アフリカと、世界中で開催国が増えております。

日本大会は毎年8月に歯科医師会館で、基礎部門と臨床部門にわけて行われており、2011年度大

会で17回目となります。基礎と臨床をあわせてもっとも優秀な発表を行った学生にはアメリカで行われる世界大会での発表の機会が与えられます。

そのような大会に出場するきっかけとなったのは、去年の大会に出場した現在歯学科5年生の上田さんに声をかけていただいたことでした。上田さんに声をかけていただいた後、硬組織形態学分野の中富先生 (第6回 SCRP 参加) に Faculty Adviser になっていただきまして、研究は摂食・嚥下リハビリテーション学分野の井上教授ご指導の下、伊藤先生、中村先生、矢作先生、多くの先生方に親切丁寧なご指導を頂きながら実験を進め、共同実験者として川本君 (歯学科4年)、成松さん (歯学科5年) とともに2011年8月に無事に発表を行うことができました。

研究内容は「ヒト嚥下誘発とその個人差に関する生理学的探究」として、個人間の嚥下に関する能力の違いは、嚥下運動のどの過程、例えば筋活動や神経活動、また神経でも末梢性なのか、中枢性なのかといった過程のどこに依存しているのか、ということ調べた内容でした。

本番前には「予演会」として学校内で発表を行





わせていただき、他分野の多くの先生方に見ていただき、ポスターの書き方や、説明の仕方について多くのアドバイスを頂きました。お忙しい中、予演会にご参加いただきました、魚島教授、宮崎教授、加来先生、秋葉先生、石田先生、多くの先生方には本当に感謝の気持ちでいっぱいでございます。

また、発表と質疑応答は全て英語となりますので、実験と平行して英語の勉強もすることとなりました。普段の生活で英語を使う機会というのはほとんどないので、英語を聞き取って、答えるということがとても苦手で、最初は不安ばかりだったのですが、中富先生にご協力をいただき、英語会を行わせていただきました。日本語無しで英語だけで会話をするというものだったのですが、この英語会を通して中富先生におかしな英語を直していただいたり、自宅で英語のラジオを聞いたりすることで、最初は全く英語を聞き取ることも、話すこともできなかったのが、だんだんと頭に入ってくるようになり、発表当日にはつたない英語ではありましたが、審査員の方々になんとか内容を伝えることができました。この SCRP を通して英語に対する苦手意識や、恐怖心のようなものを払拭することができたので、その後の学生生活でも留学生の方々から自分から話しかけていったりすることができるようになりました。

今回 SCRP を通して多くのことを学ぶこと



ができました。研究内容に関する学問的知識はもちろんですが、その他英語や、普段先生方がどのようなことをしていられるのかといったことや、先生方の専門的知識の豊富さを学ばせていただくことができました。また、SCRP 大会で出会った学生同士のつながりや、英語を話せるようになったことによる留学生とのつながりも得ることができました。さらに、なによりも自分の研究のために、非常に多くの先生方にさまざまな方面でご援助をいただきました、本当にありがとうございました。

SCRP の結果は残念ながら入賞することができなかったのですが、このように SCRP を通して多くのことを学び、多くの人と出会い、多くの方からご援助いただきました経験は非常に貴重であったと感じております。今後はこのような経験を生かして、来年の参加者を手伝っていただけたいと思います。SCRP への参加は大変素晴らしい体験になりますので、来年度以降も是非積極的に参加してもらいたいと思います。SCRP について分からないことや聞いてみたいことがあればいつでも教室を尋ねて声を掛けて下さい。最後に、ご援助いただきました多くの皆様方にこの場を借りてお礼申し上げます。それではこのあたりで筆をおきたいと思います。お読みいただきありがとうございました。

# SCRP 体験記

歯学科4年 川本 健介

この度2011年度 SCRCP に参加させていただきました川本健介と申します。私は新潟大学に編入学という形で2010年に入学したのですが、その年に SCRCP というものの存在を知りました。きっかけは一つ上の学年の方が行っている SCRCP の研究の被験者になったことでした。その際に学生が主導となって研究を行えることを目の当たりにし、とても素晴らしい機会があるのだと感じたことをいまでも覚えています。この度 SCRCP の研究について御指導くださいましたのは摂食・嚥下リハビリテーション学分野の先生の方々でした。本研究に携わることになった時期、恥ずかしながら私はその分野の知識が明らかに不足していました。しかしながら、井上先生を初め医局の先生方の親切丁寧かつ的確な御指導の下、気づいた頃には自ら考え学習していくことが少しながら可能となっていました。そこで感じたことは、参考書など文面のみで学習するより実際に研究されてる方に混ざって実験などを行うほうが多くのものを得ることが出来るということでした。大学の講義は比較的受動的なものでありますが、SCRCP のように研究を通して自ら問題を提起し解決する努力をするという機会を与えてくださったことに感謝いたしております。

本年度の SCRCP では、私は井上君の共同実験者という形で参加したのですが、本大会にも足を運ばせて頂きました。会場には全国から歯学部 of 学生が集まっており非常に刺激的な雰囲気であったことを覚えています。各大学の代表者が審査員の前で行う研究発表には同席することが出来なかったのですが、その後に設けられていた一般公開には参加することが出来ました。SCRCP の発表はポスター形式で行われ、研究内容を一枚の大きな紙にまとめ、用意されたブースに貼ります。一般公開では来場された多くの方々にその場で研究内容を説明発表します。この発表も井上君がメ

インとなって行ったのですが、私も途中でその立場に立たせていただける機会がありました。その際の写真が下のものになります。



来場されていた方々はもちろんのこと、皆さん多種多様な研究をされています。本研究の内容は「ヒト嚥下誘発とその個人差に関する生理学的探究」という題目でありましたが、生理学分野の研究をされていない方に自分の研究内容をいかに理解していただけるよう説明するか、その難しさとプレッシャーを初めて感じる事が出来た瞬間でありました。この様な立場に立つことが出来た一方で、他大学の学生の研究を閲覧することが出来る機会もありました。興味深く感じる研究がいくつもあり、実際そのブースに足を運んで説明をして頂きました。この様な形で他大学の学生の方々と交流できることも SCRCP の魅力の一つであると感じております。

「研究」と聞くと皆さん難しく取っ付きにくいイメージを持っておられるかと思えます。私自身最初はそう思っておりましたが、いざ研究に着手し始めると新鮮で面白いという気持ちになりました。大学の講義や実習だけでも大変だと思いますが、私の拙い文を読んで、少しでも興味を持っていただけましたら幸いです。

最後に、ご援助くださいました多くの皆様方にこの場を借りてお礼申し上げます。以上をもちまして SCRCP の体験記とさせていただきます。